

「今日は音を楽しんで」 地元の益北組仏青が「復興の集い」



熊本地震の震源に近

く、大きな被害を受けた
益北組（24カ寺）の仏教
青年会が4月8日、熊本
県益城町の交流情報セン
ターで「熊本地震復興の
集い」を開き、被災した
門信徒など80人が参加し

た（写真）。

開会式で徳尾真龍代表
は地震で亡くなった方を
追悼し、「これまで解体
工事の音ばかりだった。
歌や踊りなど音を楽しむ
ことも大切だと思う。今
日は楽しんでください。

そしてお念仏を中心に復
興の歩みをしていきまし
よう」と話した。

法要は組内の若手僧侶
らが営み、導師を務めた
光輪寺の山田敬史住職が
「避難生活を送る人々を
始め、一日も早い被災地
の復興を願います」と表
白を述べて、全員で正信
偈を唱えた。

法要後は、クラリネッ
ト奏者が童謡や民謡を演
奏し、小学5年の山田阿
衣さんと永野真唯さんが
日本舞踊を披露した。会
場からは「かわいいね」
の声が上がり、にこやか
な雰囲気となった。

益城町・光宗寺門徒の
永村由紀子さん（70）は
「前震の時には倒れた家
具などに挟まれたが何と
か抜け出すことができ
た。でも2回も地震が起
きるなんて。頑丈な造り
だったのに全壊してしま
った」と当時を語る。み
なし仮設住宅で避難生活
を送った後、昨年8月に
自宅を再建した。「いろ
んな人の支えがあったか
らここまでこれた」と話
した。

同青年会と若手僧侶ら
は現在も毎月、仮設住宅
を中心に炊き出しなどを
行っている。つながりを
大切にし、復興を支える
活動を続けている。